

奥田悌の数奇な人生
- 漱石と漢詩を作る -

桐原 光明

みなさん、奥田悌という人をご存知ですか。

慶応3年（1867）11月13日、筑西市奥田169番地に奥田鼎作・しめの長男として生まれました。

司馬遼太郎の『坂の上の雲』の主人公秋山真之や正岡子規、夏目漱石などと同様に、明治時代から昭和にかけて、全世界を舞台に活躍した人です。とても数奇な人生を歩みました。その足跡をたどります。

元来、奥田家は医業と儒学に親しんできました。小山春山、菊池三溪、成島柳北、二宮尊徳などと親交がありました。

奥田悌は4、5歳の頃、下館藩主石川総管から唐詩選や千字文が読めたので、短刀を拝領した程の非凡な才能もっていました。15歳の時には上京し、早稲田専門学校や島田篁村の漢学塾、共立学舎で学び、菊池三溪宅に寄宿しました。その頃、夏目漱石と知り合い、盛んに漢詩を作り、互いに研鑽しました。その漱石の作品が、明治39年8月発行の「時運」（下館市板谷善吉発行）に8編掲載されています。因みに『夏目漱石全集』漢詩作品と日記の巻に奥田悌は登場します。これらのことが発見されたのは昭和27年で、古本屋の山口真三郎氏と版画家飯野農夫也氏が見つけ、新聞に発表しました。その後、夏目漱石の娘筆子の婿の松岡謙が昭和42年岩波書店の『図書』に発見の経緯を紹介しました。

筑西市の奥田悌が夏目漱石と友人で、漢詩が残っていたという事実は驚くべきことなのです。

悌は東次郎に影響され、中国、朝鮮にわたり、情報収集の特別任務に就きました。明治20年頃、アメリカスタンフォード大学に留学しました。ジョーダン学長から薫陶を受け、帰国後、「鉄道旅客資本合資会社」を経営し、明治30年5月には『金貨本位帝国貨幣法釈義』を東京有斐閣から出版しました。明治34年にはアメリカから自動織機20台を買い入れ、「奥田機業場」を旗上げしましたが、明治35年の台風の被害に会い、さらに売上金を従業員に持ち逃げされて倒産し、田畑40町歩を失いました。さらに、明治35年、改進黨大隈重信の要請で茨城支部から衆議院に立候補し、落選しました。

大正3年、朝鮮の慶州陵都守護として赴任し、かたわら、慶州の名所旧跡、歴史に親しみ、大正9年、『新羅旧都慶州誌』を出版しました。

大正10年、新羅研究の古本探訪のため、足利市鶏足寺に行き、悌の弟、奥田虞之助（妻とし子は長塚節の妹）の竹馬の友小林正盛住職に再会する奇縁に恵まれました。悌が「自分の影が朝日に照らされ、円光に輝いた姿を見た」ことを話すと、小林正盛師は吉瑞に驚き、得度を勧めたそうです。悌は、大正11年2月11日に得度し、法

号光盛と称し、仏門に入りました。昭和6年、長谷寺別院の朝鮮京城府新願寺住職となり、帰国後、昭和8年10月25日、群馬県毛里田村丸山の清光寺で入滅しました。68歳でした。

昭和7年には『漢詩の作り方』という本を出版しています。

奥田悌は途中改名し、光盛といい、別号として、必堂、月城、耕雲と名のりしました。

奥田悌の後世に残る業績は、夏目漱石の友人として、漢詩文学作品を残したことです。これからの日本と世界、特にアジアとの交流を考えると、奥田悌の『新羅旧都慶州誌』は朝鮮の歴史を考証する上で、関野貞の偉業に並称される程、重要な功績です。

さらに、世界の動きを熟知し、進取の気風と最新の欧米の知識や科学技術を導入し、産業、金融、財政・経済、政治に新風を巻き起こそうとしたことも特筆したいものです。

（きりはら みつあき/長塚節研究会副会長・茨城県立茎崎高校教諭）

6月の予定

・おはなし会（午後3時～ 児童室にて）

6月13日（日）

『しりとりのだいすきな
おうさま』
『あしたもともだち』

6月20日（日）

『旅するベッド』
『くもりのちはれせんたく
かあちゃん』

・お知らせ

5月12日（水）からインターネットによる予約が始まりました。

利用される方は、カウンターでパスワードの交付を申し込んでください。

（利用できるのは、市内在住の中学生以上の方です。）

図書館カレンダー

5月 MAY						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

【開館時間】
午前10時から
午後6時まで

■は休みです。

6月 JUN						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			